

藤田浩子の 少し昔のこと 〈72〉

海を守る人

3月18日、水戸地裁は東海第二原発の再稼働を認めない判決を出しました。世の中脱原発に向かっている？ 今月は身を挺して原発に反対してきた母娘を紹介したいと思います。青森県の北の端、下北半島、その下北半島の北の端にあるのが大間町です。大間まぐろで有名ですが、昆布などの海藻もたくさん採れる豊かな海に囲まれています。

1982年に原子力委員会が、その大間町に新型転換炉の原子力発電所建設を決めたのですが、計画は頓挫、やっと26年後に最初の計画を大幅に変更して着工されました。

なぜそんなに遅れたのでしょうか。予定地の地主を説得して土地を押さえた、漁業組合に漁業権を放棄させた。それでも26年も遅れ、最初の計画を大幅に変更せざるを得なかったのは、たった1人



土地を売らなかった人がいたからです。

熊谷あさこさんです。その地主熊谷あさこさんが、あさこさん亡き後は娘の厚子さんが、原発予定地に住んでいるのです。「この宝の海を子供たちや孫たちに財産として残してやりたい、お金に変えられない素晴らしい資源なんです。これからの子供や孫に負の遺産を残さないためにも、自然豊かな大間町を放射能で汚染しないでください」これは、1億円出すと言われても応じなかったあさこさんが、2005年青森県知事に出した嘆願書の一部です。あさこさんのところに、町長も町議も電力会社の社長も来たそうです。今は娘の厚子さんが住んでいる「あさこはうす」は周りの工事で井戸の水も枯れ、道路も閉鎖されそうになったとか。それでもがんばっている本当に「強い人」です。そして子どもたちに負の遺産を残したくないという、本当に「優しい人」です。強くて優しいあさこさんと厚子さん母娘のことを紹介させていただきました。

リレー連載 <205>

わたしの大好きな絵本

みゆどん (藤心小きらきら)

『えがないえほん』

著： B・J・ノヴァク

訳： 大友 剛

早川書房

ちょっとした自慢なのだけれど、地元を歩いていると「あ…ほら…そうでしょ？」と小学生から指をさされることが多くある。そのキッカケが「えがないえほん」。小学校の読み聞かせ活動でこの絵本を読むようになってから、私の呼び名は「きらきらさん」でも「〇〇さん(本名)」でもなく、『えがないえほん』読んでえ〜!!と少々長めの呼び名で呼ばれるようになった。

控えめにいって私をタレントにしてくれたこの「えがないえほん」はタイトル通り、「え」がない。だからというわけではないが、この絵本の読み手にはテクニックが必要。ただひとつ、とてもシンプルなテクニック。そう。最後までひたむきに読み切ること。

読み手がどれほどに本気になるかがポイント。本気になればなるほど、聞き手は圧倒的な破壊力にひれ伏し、否が応でも抱腹絶倒させられる。そして私は心の中で叫ぶ。

——「よしっ!!絶好調!!」

